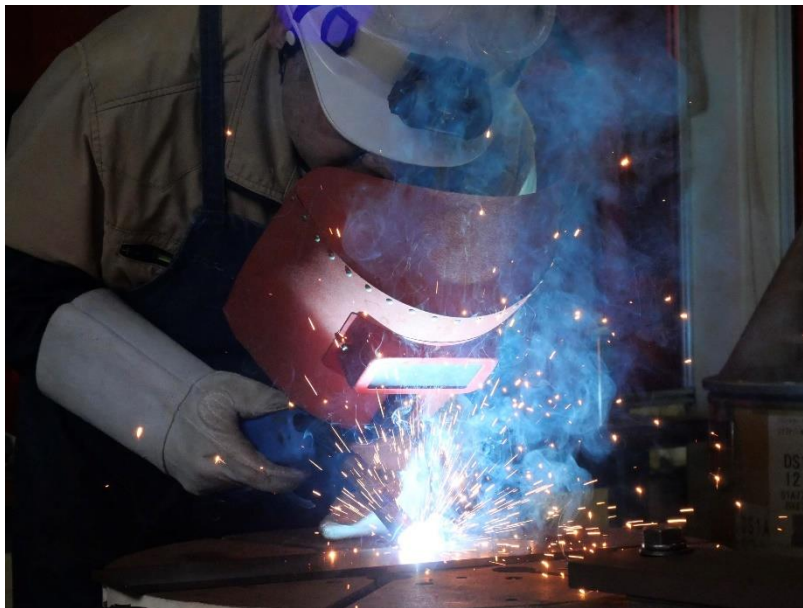


**海外での需要高まり・省資源化にも貢献
摩耗しにくい次世代電極「ZM コンタクトチップ」販売 前年比 2.35 倍増
100年に1度の自動車産業大改革 CASE へ対応**

創業 1974 年より、抵抗溶接をメインに各種溶接用電極、周辺機器の幅広いソリューションを提供する、新光機器株式会社（本社：愛知県名古屋市、代表：蒔澤武夫）は、2014 年に販売をスタートした、自社独自開発の摩耗しにくく究極の長寿命 次世代コンタクトチップ「ZM コンタクトチップ」の販売本数が、前年比 2.35 倍増を達成しましたことをご報告します。年々、原材価格の高騰や環境配慮という視点から、ZM コンタクトチップが評価され、売上は 5 年連続右肩上がりとなっております。今回は「ZM コンタクトチップ」が誕生した背景・今後の展望についてお伝えいたします。



アーク溶接を行う作業員

<開発背景>

● 2014 年から新商品として「ZM コンタクトチップ」の開発を開始

「ZM コンタクトチップ」は、“鉄板と鉄板をつける”溶接で使用されている、アーク溶接用コンタクトチップです。アーク溶接用コンタクトチップとは、電極ワイヤーを、溶接する位置がずれないように案内するとともに溶接に使用する溶接電流を供給するものであり、主に自動車・家電産業で使用されます。

ワイヤーの通過によりチップ穴が摩耗すると アークが不安定となり不具合を発生させるため、早めに新品交換が必要になります。当社はこの新品交換の作業負担の軽減に着目し、独自の開発思想『コンタクトチップの理想を造る!摩耗しにくく究極の長寿命商品 ZM コンタクトチップ』が誕生しました。

同時期、2016 年は「CASE」という言葉が注目を集めました。Connected（コネクテッド）、Autonomous（自動運転）、Shared & Services（シェアリング）、Electric（電動化）の頭文字をとった用語です。AI、IoT、IoE などのテクノロジー技術の発展により、日々自動車の概念は大きく変わり始めています。

また、2018 年には持続可能な開発目標である SDGs が採択されました。

目標 12(つくる責任つかう責任)持続可能な消費と生産は「より少ないものでより多く、よりよく」を目指す。さらには、温室効果ガス排出量・吸収量を均衡化のカーボンニュートラルが求められています。このような時代背景から、CASE→自動化、SDGs→長期間の使用、カーボンニュートラル→省資源というキーワードが浮かび上がります。

これらのキーワードから着想を得て『摩耗しにくく究極の長寿命 次世代コンタクトチップ ZM』の開発を進め、2019 年 5 月に販売を開始しました。

<売上げ好調な要因>

●海外での需要急増

当製品のターゲットは、チップが摩耗しやすい低スラグワイヤー*を使用する溶接企業です。

ここ数年、海外企業で低スラグワイヤー*の使用が増え、それに伴い売上げが拡大したのが要因で、2024 年 4 月には前年比 2 倍以上の約 1 万 8 千本の受注となりました。また、国内でも低スラグワイヤー*の使用が徐々に増加し、更なる生産強化の為 2023 年 12 月に「ZM コンタクトチップ」専用の工場を新設しました。

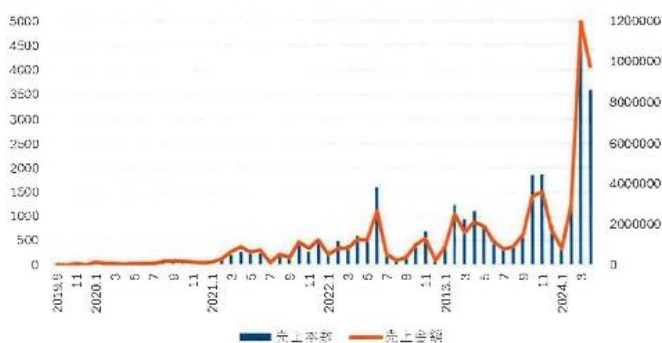
*低スラグワイヤーとは、溶接時に発生するスラグ（溶接後の不要な金属酸化物や残留物）を最小限に抑えるために作られたワイヤー。

ZMコンタクトチップ 販売実績一覧表

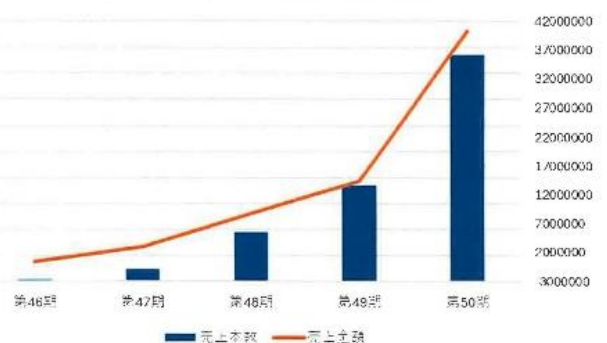
○売上本数		(単位：本)												
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	年間合計
第46期	2019.5~2020.4					5	0	20	0	46	12	16	10	109
第47期	2020.5~2021.4	18	11	16	58	55	73	60	31	45	109	203	270	949
第48期	2021.5~2022.4	240	231	42	170	147	467	265	483	270	484	409	598	3,806
第49期	2022.5~2023.4	463	1,604	230	80	172	430	678	87	390	1,230	926	1,111	7,401
第50期	2023.5~2024.4	760	511	360	390	630	1,856	1,870	804	340	1,590	4,700	3,590	17,401

○売上金額		(単位：円)												
		5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	年間合計
第46期	2019.5~2020.4					15,000	0	46,000	0	117,000	63,000	43,000	25,000	309,000
第47期	2020.5~2021.4	59,000	60,000	51,000	173,000	162,500	189,700	150,000	105,000	125,000	302,000	646,500	881,500	2,905,200
第48期	2021.5~2022.4	610,000	742,000	111,700	502,300	373,820	1,085,575	795,800	1,204,820	493,600	822,380	803,410	1,241,150	8,786,555
第49期	2022.5~2023.4	1,204,992	2,675,000	493,760	223,600	341,060	975,290	1,290,500	197,320	833,760	2,491,800	1,587,632	2,098,960	14,413,674
第50期	2023.5~2024.4	1,885,800	1,129,280	751,700	867,600	1,474,300	3,376,881	3,584,700	1,716,320	822,280	2,924,100	11,969,700	9,735,848	40,238,509

ZMコンタクトチップ月ごと売上推移



ZMコンタクトチップ期ごと売上推移



<製品概要>



ZM コンタクトチップイメージ写真

名称：ZM コンタクトチップ

発売日：2019年5月

特徴：

- ①銅合金と従来とは異なる特殊金属の組み合わせ
- ②通常のコンタクトチップに比べて約40倍の長寿命
- ③1本あたりの長期使用が可能になるため、電極取替えのロスタイムが減少
- ④省資源化

製品に対するお問い合わせ先：052-504-5150（本社）

<今後の展望>

当社はこれまでも、時代にマッチし時代に合わせた内容で進化し成功することが出来ました。今後は、時代の変化だけでなく、経済における課題や産業の大きな変革にあわせた展開・戦略が必要と考え、具体的に5つの項目の実施を目指しています。

- A.加工方法の多様化～カーボンニュートラル・SDGs へ対応現在の“切削”加工のみならず “鍛造”加工を増やす事により、鍛圧効果による耐久性向上を目指す。
- B.耐久性向上・生産効率向上の商品開発～カーボンニュートラル・SDGs へ対応カーボンニュートラル・SDGs を考慮して長寿命・作業性向上製品の開発を行います。
- C.ホームページなど活かした販売方法・受発注方法の拡大～DX 化対面販売は継続しながらも、インターネットを利用した販売スタイルの構築と得意先様などと連動した受発注システムの構築
- D.素材：アルミに対する商材の増強～自動車業界「CASE」に備えて～電気自動車・ギガキャストなどアルミニウムの使用が増える方向性がある。それに対応できる電極類の開発・製造・販売
- E.溶接・接合に関連する新たな事業の検討当社の新事業として溶接・接合に特化した事業展開

<会社概要>

社名：新光機器株式会社

代表：代表取締役会長 落澤武夫（ふきざわ たけお）

本社所在地：愛知県名古屋市西区中小田井4丁目11番地

URL：<https://shinkokiki.co.jp>

設立日：1974年5月11日

資本金：9,800万円

従業員数：136名（パート/アルバイト含む）

事業内容：溶接用電極及び、周辺装置の開発・製造・販売

<報道関係者からのお問い合わせ先>

新光機器株式会社 広報室 西口綾乃

TEL : 052-504-5150 FAX : 052-504-5158

E-mail : a-nishiguchi@shinkokiki.co.jp